神戸市とNTTドコモの事業連携協定の締結について

2025年3月11日

1　神戸市とNTTドコモとの連携協定

KOBE UNESCO City of Design × NTT docomo

2016 年 4月～（3年間）

「ICT及びデータ活用」 に関する事業連携協定

2019 年 3月～（3年間）

「ICTを活用した安全安心なまちづくり」 に関する事業連携協定

2022 年 3月～（3年間）

「ポスト・コロナ社会を見据えた先進技術を活用した令和の社会課題解決実践型のまちづくり」 に関する事業連携協定

2025 年 3月～（3年間）

「テクノロジーを活用した人口減少への対応と持続可能なまちづくり」 に関する事業連携協定

2　新たな協定テーマへのアプローチ

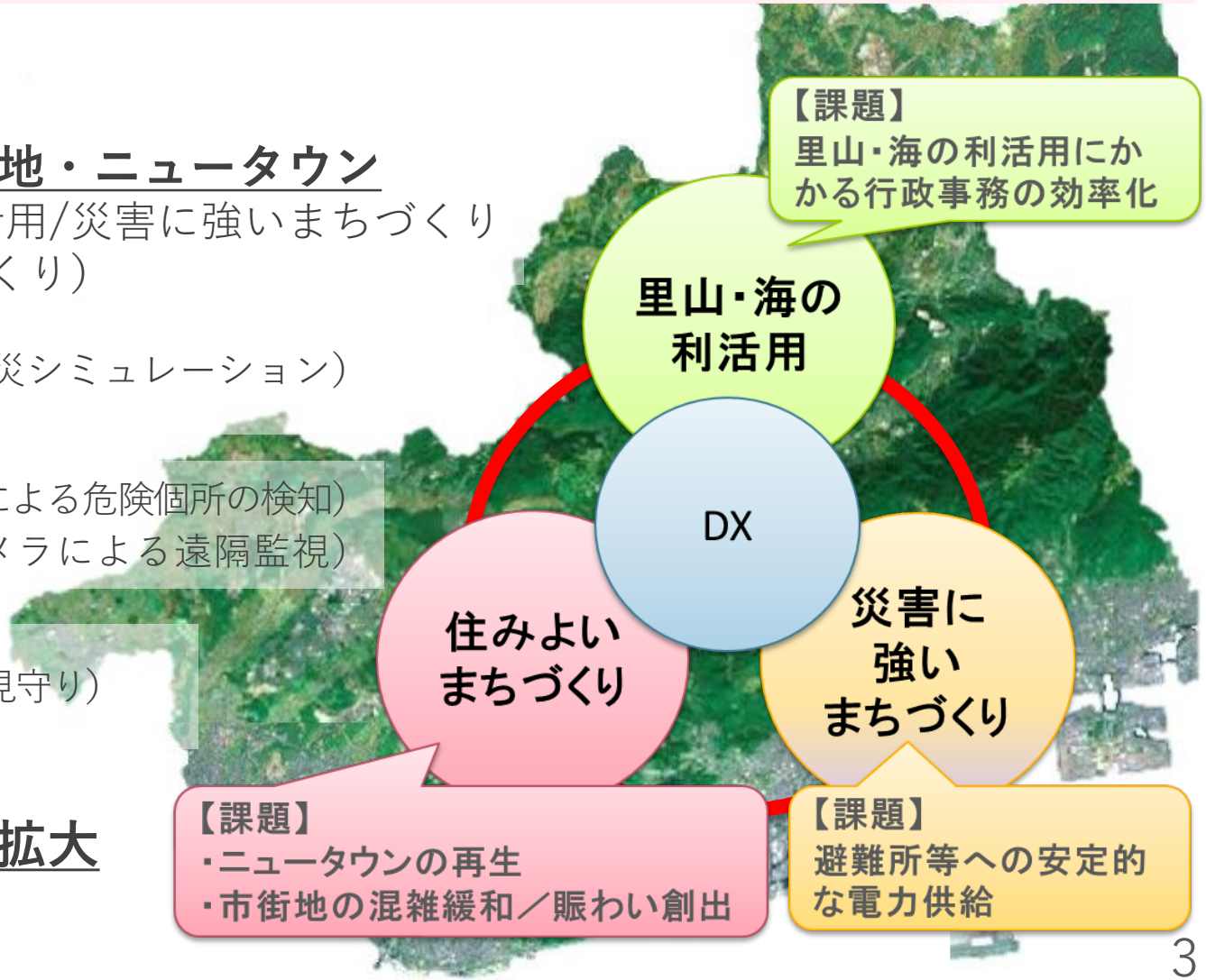
**里山と海の利活用/災害に強いまちづくり/住みよいまちづくり を目指して、
各エリアで生じる課題に対してDXを活用(データと技術を用いてアプローチ)する。**

第４期　**里山、海、市街地・ニュータウン**
（里山と海の利活用/災害に強いまちづくり/住みよいまちづくり）

第３期　三宮、神戸駅周辺（防災シミュレーション）

第２期　市バス路線（AI搭載ドラレコによる危険個所の検知）
河川（省電力ワイヤレスカメラによる遠隔監視）

第１期　学校（低電力ブルートゥースによる見守り）



協定を重ねるごとにエリア・課題の規模を拡大

3　ドコモR&Dが扱う研究領域および本協定へのアプローチ

KOBE UNESCO City of Design × NTT docomo

NTTドコモR&Dでは、特定領域の技術のみに焦点をあてた短期的取組ではなく、都市づくり全体を支えるため、以下先進技術領域の組み合わせや活用を念頭に、長期的・面的にサポートできる体制を整えている。

先進技術を活用し、
少子高齢化・環境問題に起因する社会課題解決に寄与

4　取組みの全体像

KOBE UNESCO City of Design × NTT docomo

テクノロジーの実証を神戸から－
里山、海、都市部など多様な特性を持つ神戸で持続可能な都市経営のモデルを共に創る

5　取組み内容（１－１）

KOBE UNESCO City of Design × docomo

里山・海の利活用　①不法投棄・盛土の監視の実証

不法投棄や盛土の監視において、衛星画像とAIを活用したDXで事務を省力化、事案の早期発見や改善指導後の状況把握等での効果を実証

現状の課題

・月２回程度の定期監視と大雨後の監視を職員が現地確認で行っており、時間がかかる
・現地確認が難しい、危険が伴う場合がある
・パトロールの人員が限られるため、発見までにタイムラグが生じ、事案解決が困難化・長期化

実証の内容

○<u>業務の効率化/日常的な監視の強化</u>
・衛星画像とAIを活用し、現状の定期監視以上の頻度で、現地に赴くことなく不法投棄や盛土の状況を遠隔で監視（1回３h×２人、年間約20回分を省力化）

定期監視・パトロールの省力化により、新たな事案の早期発見・早期解決に注力。

里山・海の利活用　②神戸港日常点検の実証

神戸港の監視において、衛星画像とAIを活用した巡視困難エリアの見守り効果を実証

現状の課題

・神戸港には運河など、狭くて巡視船が入れず監視が難しいエリアが存在
・神戸港の海域が非常に広く、日常点検に多くの人員・時間がかかる

実証の内容

○<u>日常的な監視の強化</u>

衛星画像とAIを活用し、運河等の海からも陸からも確認が難しいエリアで危険な浮遊物を検知し、海の安全性を確保

発展形として上空からの映像に加え、地上で取得したデータと組み合わせた検知可能範囲の拡大を目指す。

災害に強いまちづくり

平常時の避難所における非常用電源の可視化

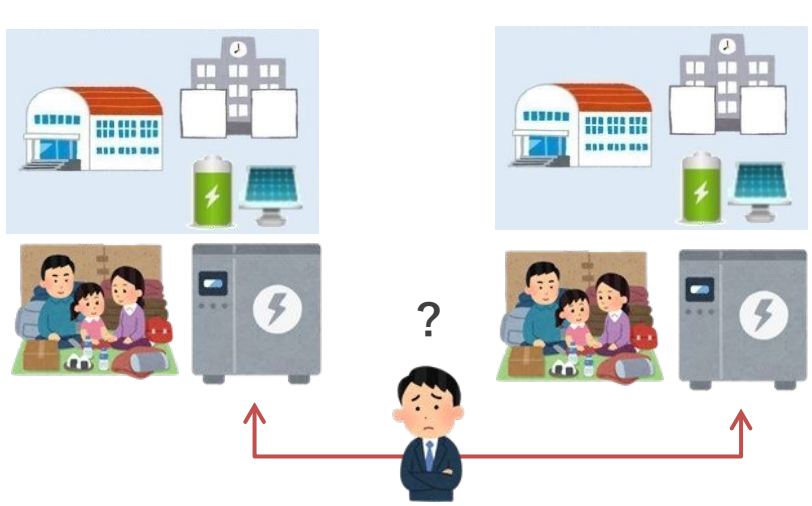
給電車配車事務にAIを活用し、停電時の避難所への効率的な電力供給を実証

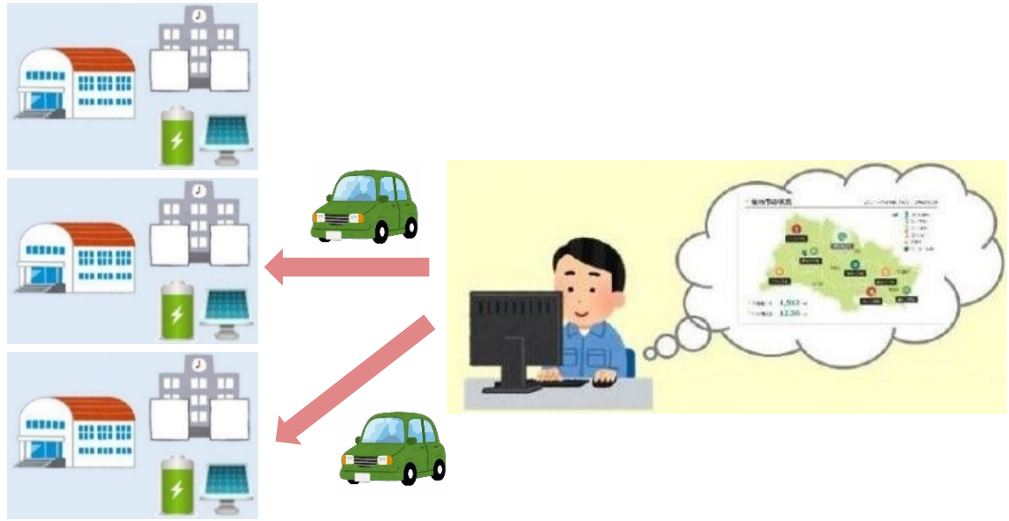
現状の課題

・避難所の非常用電源の残量が分からない
・避難所への給電車配車の事務に負担がかかり、有事の際に速やかに電力供給できない可能性

実証の内容

・避難所の非常用電源の状況を可視化
・AIによる、避難所の電池残量、車の電池残量に応じた最適配車及び事務負担の軽減





5　取組み内容（３）

住みよいまちづくり

ドコモの先進的な技術を活用し、まちの課題の抽出～分析～解決までを実証

Step 1 まちの課題の抽出 → **Step 2** 必要なデータの取得･分析 → **Step 3** 技術的アプローチの検討 → **Step 4** 神戸をフィールドに実証

（例）ニュータウンにおける交通課題の場合

Step 1

住民WS等での課題の抽出

例）
・坂道が多い
・高齢化による免許返納
・バス路線、本数の不足　など

（議論進行に適用するAI技術など）

Step 2

課題の現状と原因をデータ分析

例）
・人流データによる動線把握
・神戸市、地元企等が持つデータとの組み合わせによる詳細分析
（非識別化処理技術等の適用など）

Step 3

課題解決につながるテクノロジー、システムの検討

例）
・移動手段の共用化/最適化の検討　など

Step 4

特定エリアでの実証と実装・拡大に向けた検証